



イエス団熊本地震救援対策本部通信

発行所: 社会福祉法人・学校法人イエス団 熊本地震救援対策本部

発行者: 対策本部長 平田 義

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 5-2-20 TEL: 078-221-9565 FAX: 078-221-9566

http://www.jesusband.jp e-mail: honbu@jesusband.jp

vol. 1

2016/5/20

平素は、社会福祉法人・学校法人イエス団の働きにご理解、ご協力いただき厚く御礼申し上げます。

この度、4月14日、16日に「熊本地震」発生後、私たちイエス団では「イエス団熊本地震救援対策本部」を立ち上げ、イエス団の理念に従い、子ども達、高齢者、障がい児者等の社会的弱者に焦点をあて、息の長い支援活動を行ってまいります。去る4月28日から30日まで、救援対策本部から支援物資と支援金を持って現地に入り、今後の支援のあり方について考えてきました。以下に、その報告と今後についてのお知らせをいたします。

●イエス団の支援活動と今後について

【募金活動】

5月9日～8月末日まで、目標額300万円でイエス団全関連施設において募金活動を実施していく

【支援金および支援物資配布先】(第1回派遣)

- ・ 日本福音ルーテル健軍教会
 - …教会に於いて、地域の方や教会員などを震災直後から受け入れ、避難所としての機能を果たしてきている。教会関連の地域の児童施設に於いて、200名以上の地域の被災者を受け入れ、公的避難所として動いてきている。
- ・ 熊本YMCA
 - …2年前前に指定管理で委託を受けている益城町総合運動公園に於いて、約1300名もの被災者の受け入れを行ってきている。
- ・ 被災地障害者センターくまもと
 - …災害支援の網からこぼれ落ちがちな障がい者のニーズを把握し、物資、人、お金などを被災者に届けていく活動を行っている。
- ・ NPO 法人 NEXTEP
 - …重症心身障がい児者やその家族に対して、被災生活のサポートと、今後、通常生活に戻れるように必要な各種支援を行っている。
- ・ NPO 法人にしはらたんぽぽハウス
 - …被害が大きい西原村にある障がい者の就労支援事業所。通所者の支援より、地域の被災者への支援を最優先し、炊き出しや片づけなどの支援を行ってきている。
- ・ 日本基督教団武蔵ヶ丘教会
 - …熊本市北区に位置する教団の教会で、教団から集まる物資の集積場所となり、必要とされる避難所等に物資を搬送している。被災された地域の方々の心のケアのために喫茶コーナーも設けている。
- ・ NPO 法人あゆみ
 - …熊本市西区にある、障がいが高くても軽くても、地域の中で支え合いながら介護する人、される人、共に社会参加することを理念としてかける事業所。震災直後から、通所者で自宅に帰ることが困難な方や、地域の被災者を受け入れて24時間体制で被災者支援を行ってきている。
- ・ そのほかの訪問先
 - 日本福音ルーテル神水教会、慈愛園、益城町総合体育館。



地震発生時間で止まったままの教会の時計



武蔵ヶ丘教会の神田牧師と

「イエス団熊本地震救援対策本部」の取り組みと今後の活動について

イエス団熊本地震救援対策本部会議では、「熊本地震」で被災された方々へイエス団の理念にそった、

イエス団らしい息の長い支援を行っていくために、以下の内容を対策本部で決議しイエス団全体で取り組んでいくことを確認しました。

- ・イエス団全体としての募金の目標金額を設定し、募金活動に取り組んでいく。
- ・被災地からの情報を集約し、各施設に情報を届け、思いの共有をはかっていく
- ・被災地からの要請により、ボランティアの派遣を行っていく

●被災地を訪れて

先遣隊として同行させて頂いた。私の目を見たこと、聞いて感じたことを微力ながらお伝えしたい。

まず、車で熊本県内に入ると、瓦屋根をブルーシートで覆った家がたくさん見受けられた。益城町では至る所で崩れた家、傾いた家などあり、我が家の変わり果てた姿を目のあたりにしている被災者の気持ちを思うと胸が痛んだ。



益城町ではいたるところで家が崩壊していた

たんぼぼハウス(就労事業所)やあゆみ(重症心身障がい者デイサービス)では、多くの通所者がそこで避難生活を送っておられ、避難所に行ったけど断られた方もおられたそうだ。福祉避難所もほとんど機能していないとのことで、障がいのある方の避難生活の深刻な現状を知った。

また、NEXTEP(小児専門の訪問看護や放課後等デイなど)の島津小児科医のお話にも驚愕した。熊本市は、もともと障がいのある児童の移動支援の支給決定がなされていないこと、居宅介護(ヘルパー)もほとんど利用できないこと、そのため、ヘルパー事業所等も育たず、支援が拡がらない状況が震災前からある、とのことだった。京都市では考えられないことである。また、計画相談は半年待ちという状況だった。障がいのある方の地域生活を熊本市はどう思っているのかと憤りを感じた。

今後、人的支援の比重も増していくだろう。中でも相談支援は、仮住まいや仮設住宅など大きく生活環境が変わるため、障がいのある方にとって生活が落ち着くまで、より手厚い関わりが求められると思う。また、熊本市には他府県の風も入れるべきであるため、長期的に継続した支援が必要であると感じた。

(京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」 佐藤雅裕)

●主はわが避け所～教会の果たす役割～

先遣隊としてお誘いを受け、部分参加ではあったが被災地を訪問させて頂いた。各施設の訪問や状況については、他のメンバーが報告している通り。私は、教会の視点から報告したい。

私たちが寝泊まりした日本福音ルーテル教会健軍教会が、どのように地域の避難所になったのか不思議であったが、小泉牧師によると、避難所になるために呼びかけたのではなく、偶然の出会いの中で自然と避難所になっていったということだった。ひとりの高齢者を迎えに行った時に、ご近所の方々が恐怖のため野外で震えておられた。その光景を見て安全な教会へと招き入れたそうだ。20人から30人くらいの隣人が恐怖の夜を過ごし、新しい朝日のもとに共に食事をした。この時の感謝の気持ちは忘れられないと、小泉牧師は語っておられた。近所からの避難者は不自由な生活を送っていると感じさせられたが、その後に訪問した益城町の総合体育館や西原村の小学校などに避難しておられる方々の生活状況をみると、非常時だから仕方ないとはいえ、その状況の格差に愕然とさせられた。

被災地の家屋の壁や柱は折れ、崩れ、破壊されていて、心痛んだ。その一方で、教会の見えない壁も崩されたと感じる。苦しい中でも、心が通う空間や時間が備えられていることは、その後の復興の歩みに大きな影響を与えるのではないかと。小泉牧師は、食事の前に、一人ひとりの様子を報告され、気遣う時間を設けておられた。たとえ、少しの人数で限られた支援であっても、心通う支援は必要だと感じた。

また、日本基督教団武蔵ヶ丘教会は、避難所にはなっていないものの、支援物資の集積所になっていた。そ

ここで、神田牧師は、物資が行き渡ったあとは、心のケアを行う時期が既に来ていることを教えてくれた。

私たちのイエス団や教会の役割は、手の届かない小さな場所に、目立たない仲間に出会いながら、細くても長く支援を継続していくことのように。まさに、「ミッションステートメント2009」に掲げられている一つひとつの使命を果たして行くために互いに努力したい。

その他「ミッションステートメント 2009」の理念のもとに、積極的に活動していきたいと思いますので今後ともご協力いただけますようお願い申し上げます。

(上内鏡子)

【熊本への派遣】(第2回派遣)

2016年5月9日から現在継続中 派遣先:熊本県西原村 たんぽぽハウス

派遣者:馬嶋 亮太さん(愛隣デイサービスセンター)

【2日目】

たんぽぽハウスの朝は6:30には動きだす。役場に避難している方の炊き出しが本日最終日。朝からご飯を4升分炊き配膳。明日からは、避難所にはお弁当が配布されますが、たんぽぽハウスは避難所指定されていないので配布はありません。本日は大雨の為、15:00で作業を切り上げ、それぞれ帰宅。送迎に同行、今後送迎の支援も行う予定。本日はルーテル教会に泊まります。

【4日目】

快晴。作業場、調理場、倉庫内、さらに送られてくる想いのこもった多くの物資の整理。日帰りで鹿児島から支援。職員さんは休暇を順番にとることができていますが、震災後、休むことなく泊まり込みで活動されている職員もいます。今晩は施設横に設置してあるテントで寝ます。

【6日目】

猛暑日。みんなずっと気を張り詰めています。少し弱音をこぼすと今日はバテました。社協のボランティアさんが20人、福岡からもボランティアさんが数人きてくれました。職員さんからのリクエストに応える1日でした。また日帰りのボランティアさんの質問にも答えます。朝食を摂りながら地震当時の話を家が全壊した方から聞きました。ハウスに届けられた支援物資をもらいにくる方がどんどん増えています。自衛隊撤退、ボランティアセンターの移動、中学校再



開。日々状況は変わっていきます。

【8日目】

毎週金曜日にラーメンデーとして調理し販売していたラーメンを震災後初！作られ、地域の方も食べに来られました。役所の方や、ボランティアの方も食べに来られました。避難所の方やボランティ



アの方に少しでも温かい食事をとってもらいたいという気持ちから、全国から送られてきた食材で作る『絆ラーメン』とても美味しかったです。

【9日目】

タンクの水汲み、被害が大きかった職員の方の家にも水を補給。避難所ではお坊さんと腹話術、コンサートが神戸から来られたのでメンバーと行ってきました。その後ハウス内で石田裕之さんが熊本の民謡を歌った際に、メンバーの方が声をあげて涙を流されたことでもらい泣きをしました。炊き出しが行えていなかった先週ですが、役所から土日

祝日は行ってもよいと変更になりました。

【10日目】

6:50 頃に毎日アナウンス放送が避難所であり、目が覚めます。7:00 からは避難所の方はラジオ体操をされます。施設の外に山積みされていた物資の整理、米を倉庫に移動。米は仮設住宅が完成した後、ことに必要な方に配りにいく予定だそうです。午後は貯まった段ボール箱や新聞、雑誌をゴミ捨て場に持って行きました。一定期間無料で引き取ってくれるそうです。昨夜のご飯のあいだテレビで女子バレーボールをやっているのを見て、被災された職員の方が「世間は普通なんだね。」と言われていました。西原村周辺も断層の上に建っていた家は被害が大きかったです。彼の家は断層の上に家があり、震災後水道も、電気もなく家の外のテントで今も生活しています。仮設住宅は建設が始まっていますが、6月中旬まで完成しないとされているみたいです。明日は金曜日ラーメンデー！ということで仕込みをされていました。

ついに復活です。300円で販売されるそうです。楽しみです。



●募金について

「イエス団救援対策本部」ではイエス団関係各所に対し、被災された方々への救援のための活動資金や義援金のため300万円を目標金額とし募金をお願いいたします。

【募金振込先】

- ・ 郵便（ゆうちょ銀行）振替口座 口座番号：01140-8-75472 加入者名：社会福祉法人イエス団
- ・ 三井住友銀行 三宮支店 普通預金：9206516 口座名：社会福祉法人イエス団

* 通信欄に、「熊本地震救援募金」と明記してください。

ミッションステートメント2009

わたしたちイエス団の實踐は、1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会悪と闘い、新しい社会を目指して多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日
社会福祉法人イエス団
学校法人イエス団